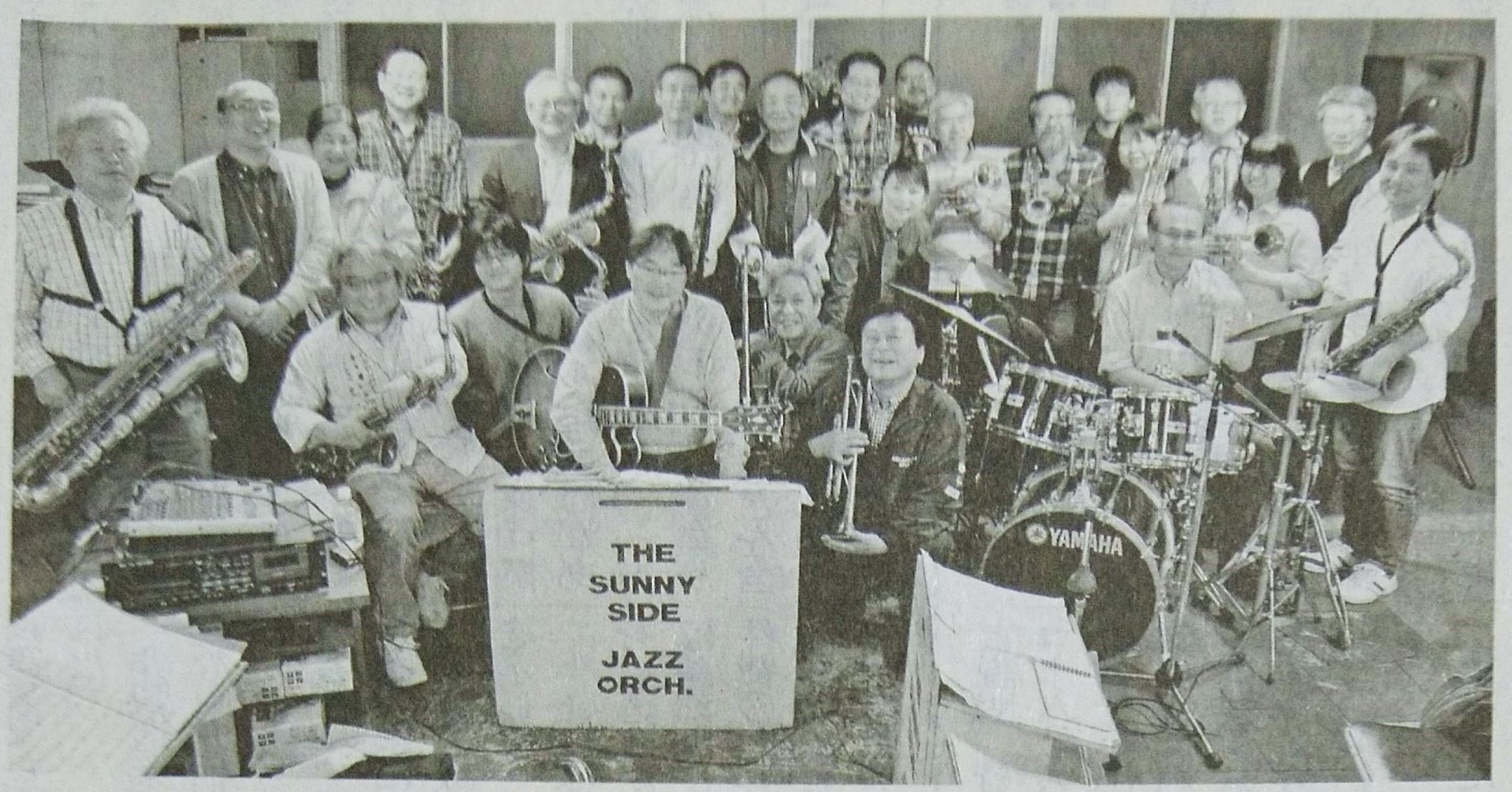
サニーサイド・ジャズオーケストラ40周年

気持ち一つ一つ音紡ぐ

ジャズを親しみやすい存在に

徳島のジャズ界をリードしてきたバンド「ザ・サニーサイド・ジャズオーケストラ」が、結成40周年を迎えた。県内の多彩なイベントに出演することで、それまで敷居の高いイメージがあったジャズを親しみやすい存在にした。近年は小中学校への訪問演奏も積極的に行い、ジャズの楽しみ方を若い世代に伝えている。



40周年記念公演を控え、笑顔を見せるザ・サニーサイド・ジャズオーケストラ＝徳島市内の稽古場

ザ・サニーサイド・ジャズオーケストラは、バンドマスターの林郁夫さん(63)＝徳島市西新町1、金物店経営＝が1978年、ジャズ仲間3人で結成。吹奏楽の経験があるメンバーが次々に加わった。現在は医師、大学教授、会社員、主婦、大学生ら20～60代の25人で活動している。夫婦も3組いる。

40年の活動で最も大切にしてきたのは、一つの音を作ることへのこだわりだ。「一人だけが上手でもうまく行かない。息を合わせ、気持ちが一つになった時に初めて、温かなサウンドが紡ぎ出せる」と林さん。

毎週土曜日の夜2時間、徳島市内の稽古場で練習を重ねるスタイルは40年間変わらない。プロのジャズオーケストラのバンドマスターらを招き、泊まりがけで技術を伝授してもらう合宿も毎年夏に続けている。

99年の米国公演は、バンドの評価を高めた。結成後20年が過ぎ、招待されて出演した本場での演奏会。世界の舞台で「A列車で行こう」＝「サテン・ドール」といった名曲を響かせた。「ジャズの原点に立ち返ったバンドが日本から来た」。演奏後はスタンディングオベーションで迎えられた。

サックス奏者で結成当時からのメンバー木村義治さん(59)＝徳島市国府町北岩延、会社経営＝は「夢のようなステージをやり遂げることができ、感動で泣いてしまった」と振り返る。

米国公演から帰国後、バンドのアドバイザー的存在だったプロのトランペット奏者、故永井秀保さんに、県内のジャズバンドとして使命を果たしたことを告げると、こんな言葉が返ってきた。「ジャズに興味を持つきっかけにしてもらおうと、子どもを対象に出前コンサートも頻繁に行っている。

2003年、児童が2人しかいない三好市の野呂内小学校で開いたコンサートでは、地域を挙げて歓迎された。校歌をアレンジして演奏すると、児童とお年寄りらが一緒になって歌ってくれた。「ジャズの楽しさが伝わった」とメンバーが実感した出来事だった。

昨年、新メンバーに加入した徳島大4年の中野智哉さん(22)＝藍住町奥野＝は、藍住中時代、サニーサイドの演奏を聞いてジャズを始めた。「憧れのバンドの仲間に入れてもらえて感激した。熟練の先輩たちからたくさん吸収して社会人になっても続けたい」と夢を膨らませている。

ジャズの裾野を広げようと小さなプライドを持って活動してきたサニーサイド・ジャズオーケストラ。これからもその気持ちに変わりはない。（柏木康浩）

来月2日 記念公演

ザ・サニーサイド・ジャズオーケストラは12月2日午後6時から、徳島市のアスティとくしまで結成40周年記念リサイタルを行う。

アリーナにテーブル100台を並べ、米国の大きなジャズクラブのようなゆったりとした雰囲気で演奏を聞いてもらう。ワインやビール、軽食などは持ち込みOKで、ジャズを自由に楽しめるスタイルだ。

「茶色の小瓶」「イン・ザ・ムード」など7曲を披露する。一時期、メンバー兼トレーナーとして所属していた小松島市出身の作曲家でサックス奏者の住友紀人さんや、林郁夫さんが指導に訪れている阿南第二中のジャズバンド部も出演し、リサイタルを盛り上げる。

アリーナ席（600席）は全席指定で、3人チケットが4500円。スタンド自由席は500円（飲食は禁止）。問い合わせは林さん〈電090(3786)5088〉。

アスティとくしま